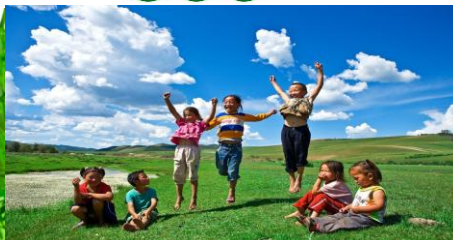


2025

NPO アジア植林友好協会・活動報告書



植林で拓く地球とあなたの未来



NPOアジア植林友好協会 2025年2月

わたしたちの活動の原点は、

「木」の復活です

木はこの地球上でもっとも美しく

「命」を強力に与えてくれます。



「木」はこの地球上で最も美しく「命」を育み続ける偉大な生き物です。

私たち人間が、地球上で生き続けるためには「木」が不可欠です。

木がなければ人生は不可能で想像を絶するものです。私たち NPO アジア植林友好協会は、そのような考えから、木を植えて、育て、守る活動をしています。

2002 年設立以来 23 年、活動を継続できておりますことひとえに、多くの個人、法人の皆様から多大なるご支援のたまものと感謝いたしております。

今日を迎えることができましたこと改めて心より御礼申し上げます。

日ごろは、適切なご報告が不足していること心よりお詫び申し上げます。

報告のタイミングが大幅にずれてしまい申し訳ございませんでしたが、遅ればせながら 2024 年度の活動報告書を取りまとめましたので、お届けさせていただきます。

ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

木々は、私たちに呼吸する新鮮な空気を提供する以上のことを提供しています。木や他の自然の源のない生活を想像してみてください。

私たちは木々に完全に依存して生きていますが、木々の保存と成長については無知です。

私たち人間は現在 80 億人以上の人口を持つ種であり、毎秒その数が増えています。

私たちの個人主義的なニーズと欲望も指数関数的に増加して、自然界に大きな負荷を与え続けています。私たちが必要とするものや欲望はすべて、この惑星でできる空気、私たちが呼吸する空気なしでは、一瞬たりとも生き続けられません。

呼吸に必要な空気は、この惑星の重要な {源} から来ています。

私たちの惑星とその「源」が人間の終わりのないニーズと欲望をいつまで満たすことができるかという疑問が浮かびます。もし私たちがそれらの重要性を無視し続けるなら・・・

私たちは愛、平和、幸福を望み、調和して生きたいという願望と同時に地球が私たちに提供する「源」の世話をしていないことを気づくべき時です。

地球は無限ではありません。

無限であり続けるためには「木を植えることが必要不可欠」です。

私たちは、**母なる自然**によって、私たちに与えられた**基本的な「源」**を破壊しており、

そして被害を回復する代わりに「源」を破壊する行いをまだ続けています。

いずれ、未来に生きる人間は苦しむことになるでしょう。

そんな事態を和らげるためにも木を植え続ける必要があります。



樹下植林して植林後 23 年のメランティ

東カリマンタン州にある林業公社の所有林も伐採と森林火災の繰り返しにより、荒廃し、自然による二次林を形成していましたが、森として再生するには主木に育つ樹種がない状態でした。わたしたちは林業公社と協力して主木に育つ、在来樹種を樹下植林することを 2001 年からはじめ、順調に育ち、直径 40 cm に育ってくれています。↑写真



はっきり自覚しておきましょう。

「木」はこの地球上の生命の基本的な「源」です。

私たちが、今まで生活の中で作り出してきた、すべての環境問題は、自然の源とその保存にもっと注意を払うことによって修正することができます。

木は主な「源」であり、常に私たちのために働いていますが、その見返りに、私たちはその忍耐と成長について一度も考えたことはありません。

いまこそ一緒になって、母なる自然が私たちに語ろうとしてきたことに耳を傾けましょう、そして自然の「源」を救いましょう。

今日から始めても遅すぎることはありません、私たちはそれを保存することができます、ただ私たちは平和、幸福と私たちの祖先が楽しんだ新鮮な空気/雰囲気を見つけるために再び自然と統合、調和する必要があります。

次世代にも「樹のある景色」を残したい

今を生き抜いて、次世代が安全、安心して生活できる環境を残すために、私たちが優先して取り組むべきことは、特別な技術も莫大な資金も必要ありません。先人に倣って、誰でもができる、活用されてない**世界中の空き地に「木を植えること」**です。



でも、**地球市民として「心ひとつ」みんなが望む安心安全平和な明日の地球を引き継ぐ**

7

自然の再生能力の限界を超える破壊が地球上では進んでいます。木々を守り、自然を守り、次の世代のために命を守りましょう。わたしたちは、2002 年からインドネシアで植林活動をしています。**インドネシアは世界でも貴重な熱帯雨林地域で、わたしたち日本人の気候にも大きな影響があるからです。**

生命の森づくりプロジェクト、2001 年～



2001 年アランアランの草原から始め↓



植林 6 か月のチークの苗木です。↓



※このように今は、チークの林に育ってきています ↓



災害に強い森に育てる目的で、昨年よりチークの樹下に
メランティーを植えることを始めています。

←左の写真はチークの樹下にメランティーを植林し 3 か月後

↓下の写真はチーク林に混植直後の状態です



※混植している赤メランティーの苗



メランティーは、はじめは「陰樹」＝日陰を好む樹種ですが日陰を抜け出すと陽樹＝太陽を好む樹種になり、天蓋を形成する樹種になります。



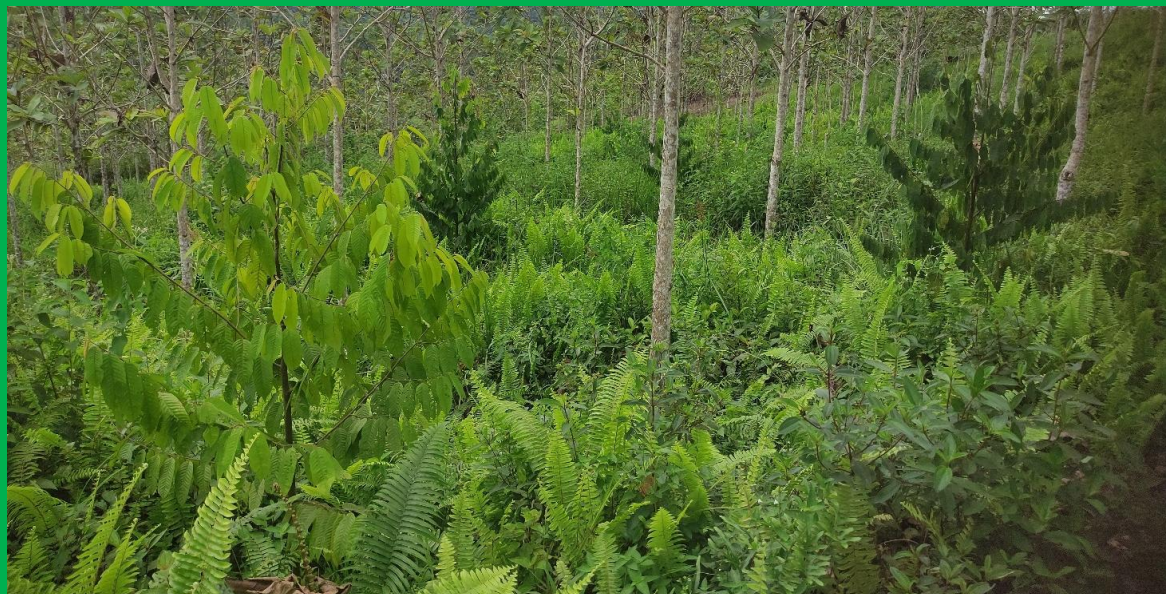
チーク林に混植 6 か月後のメランティー



メランティーを植える現場主任

1998 年から 1999 年にかけて燃え広がったインドネシア東カリマンタン州の森林火災の鎮火直後の現場に遭遇し、その状況に愕然として「子供世代の将来はどうなるのだろう？」と思い、今自分にできる事は少しでも多く、失われた森を再生することだと考えて 2001 年に「生命の森づくり」活動をはじめました。多くの皆様のご協力で、2024 年度までの 23 年間での累計植林本数はチーク 18,644 本、メランティー18,644 本の**合計 37,288 本**となりました。再生された土地面積は約 60,000 m²で自然再生された草木林よりも豊かな森につながっています。

2025 年 1 月の状況



チークとメランティー

の混交林に育てる。

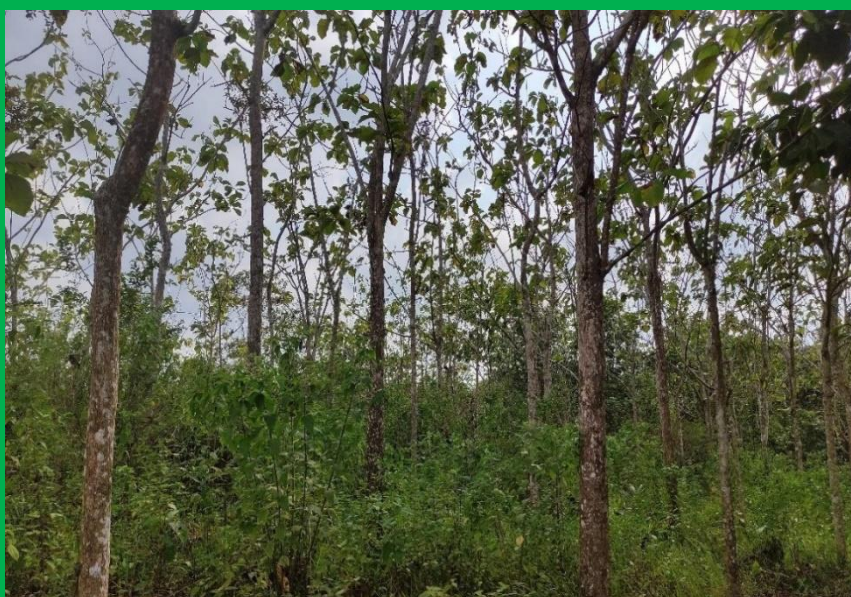
メランティーが日陰か

らより光の当たるよう

に成長して、チークを

追い抜いて、天蓋を作っ

てくれるとより豊かな森



が形成されることを期待しています。





モリンガ植林で得られる恵み＝人類社会への貢献



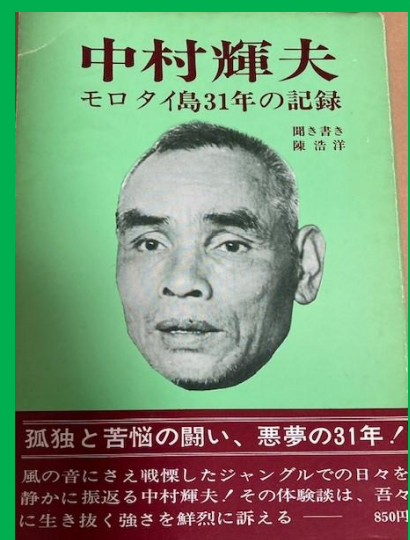
モリンガの恵みは幅広く、人間社会生活を支えてくれる頼もしい存在です。1本でも多くの

モリンガを植えて、住みやすい地球環境の維持再生を目指したいと活動しています

2024年度は、東カリマンタン州の km30 内の荒廃した土地を開墾し、2000本を植林し、

モロタイ島ではコミュニティー林を開墾して、5000本を挿し木によるモリンガ植林を実施

しました。合計 7000 本の植林を行いました。



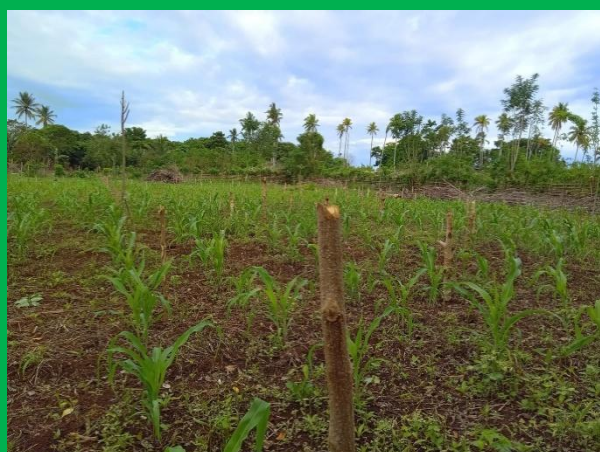
モロタイ島とは？日本との関係は？

この島は 1942 年初頭日本軍が占領した。モロタイ島の南部平原は 1944 年 9 月のモロタイ島の戦いでアメリカ軍に占領され、1945 年初頭のフィリピン侵攻、同年 5 月から 6 月のボルネオ侵攻の拠点として利用されました。1944 年後半には 61,000 人の人員がモロタイ島に上陸。モロタイ島の日本軍は 1945 年 9 月 9 日にモロタイ島で正式に降伏した。

戦争後も残っていた最後の日本兵、中村輝雄（台湾出身）は、モロタイ島で発見され、1974 年 12 月 18 日に捜索隊に降伏しました。中村さんの存在を知り、モロタイ島にご縁を感じ、戦争で荒廃させた島に民生の発展と緑ある環境を取り戻したいと考えて、モリンガの植林を行っています。



雑草の繁茂を防ぐためと植林地の安定のためにトウモロコシとの混植をしています。



モリンガは成熟した木を挿し木による植林をしています。

地球愛祭りでモリンガをアピール

2024 年 10 月 6 日 日曜日 東久留米の済美教育文化会館にて今年も行われ、出店させて頂きました。モリンガ植林の PR とモリンガそばなどの販売をさせて頂きました。市民の有志の皆さんがボランティアで運営管理されています。



来客の中で 1 名が 12 月のインドネシア植林体験ツアーに参加していただきました。



フィナーレは参加者みんなで「地球に感謝ありがとう！」を連呼、感動的でした。

2024 年 12 月 6 日～13 日

インドネシアバリ島&カリマンタン島植林体験ツアーを実施

植林は地球に生きる人として大切な行いです。一人でも多くの人たちにこの思いが伝わるように願い、植林ボランティアツアーにも取り組んでいます。

❖ 植林地の前で日本語を学ぶ大学生と。

雨の中これまでの植林木を散策

※義母の逝去記念木 25 年目➡



← バリ舞踊鑑賞



2007 年植林開始地点前にて集合写真



前夜祭で植林と環境についてのインドネシア大学生のスピーチコンテストを行いました。



↑地元の大学生とツアー参加者の集合写真

日本から有志の皆様にご寄付して頂いた →
「ゆかた」を女子学生にプレゼント！
大変好評でした。若者と友好親善の一環



とてもお元気な 83 歳の中野様



世界平和の森づくりプロジェクト 2007～

度重なる火山爆発により壊れ、生活を失われたバリ島のバツール山の回復を願って 2007 年から継続的に植林活動をしています。

2010年の植林地



火山灰と溶岩に覆われた大地に植林を始めて 3 年目の頃はほとんど樹木の姿は見えませんでした。



写真は 2022 年の現場でのものですが、あれから 3 年過ぎてより一層大きく育ってくれています。現地訪問時に写真を撮った場所に登れなかったために 2022 年の写真を掲載使用。一部火災に遭っているところもありますが、ほぼ順調に成長を続けて育ってくれています。また火事に遭った樹木も雨季を経て新しい葉が芽生えて再生してくれています。自然に感謝！

❖人の手による、自然回復のための植林 in Bali

わたしたちがバリ島で取り組んでいる再植林は、火山爆発により壊滅的な被害を受けた地域の、環境に対して多くの良い影響をもたらしています。再植林した土地では木々が7年目以降は根が十分に成長して、期待以上の成長をしてくれています。育った森林は、土壌の水分を保有し、土壌水分の保護や土壌の浸食防止にも役立っています。

※片岡バリ駐在領事夫妻が今年も

参加してくださいました。左横は

バリ緑化協会のプロボ氏開始時より協力→



2024 年植林祭日本の参加者の方々とインドネシアの日本語を学ぶ大学生



今回あらたに植林したインタラン



2007 年 JAC の代表が植林された木の前で→



ツアー初参加の中嶋さん



アンププを植える山岸さん



毎年参加の小林さん

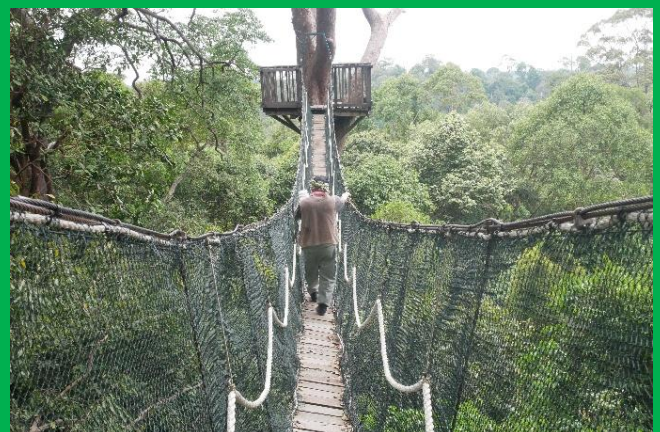


ツアー毎年参加の鹿養さん



植林祭参加の領事ご夫妻とともに

東カリマンタンへ ※2001 年から植林活動をし、樹下植林をして、森の再生を
目指している林業公社の二次林の様子林した木々が大きく育っています。
※キャノピーブリッジを目指して、トレッキングの様子です。



吊り橋の上から見る熱帯雨林は最高です。



2024 年植林体験ツアー参加の皆様 in 東カリマンタン州バリックパパン

植林している樹種

赤メランティー



メランティー



チーク





ムクナ豆



モリンガ



ポンガミア

環境への負荷は
目に見えなくても
ある日突然に
現象が現れる

木は地球上でもっとも強力な
命を与える力です

環境に負荷を
かけない生き方
自然と共に生きる
生き方



危機感を持って、選択するのはあなた自身

「最後の木が枯れ、川が汚染され、
最後の魚が釣り上げられてはじめて、
人間はお金を食べることができないことに
気がつくものだ」

緑豊かな地球を子供たち引き継ぐ、子供たちのより良い未来のために

こんな大きな木の繁茂する森を取り戻し、次世代に引き継ぎたい



**2024 年度の植林プロジェクトの協力いただいた、法人、個人の皆様
継続的なご支援に感謝申し上げます。（順不同）**

❖世界平和の森づくり

JAC リクルートメント(株)、(株)フジダン、(株)城山、(株)宏和デザイン、世界平和青年連合、小山家庭教会、(株)コカ・コーラボトラーズ、(株)ユカ、(株)スマートビジョン、(株)アズ、ワラケン(株)、世界日報社、林滋子様、本多満様、中野米蔵様、山岸政昭様、世界日報社、鹿養貞人様、鹿養佳子様、中嶋百合子様、佐々木重臣様

❖生命の森づくり

国際ソロプチミスト東京西、(株)トラスキー、(株)城山、ジュンセイ(株)、ジェイレックス・コーポレーション(株)、(株)一富士通商、ヤフー(株)、サントリービバレッジソリューション(株)、藤原健二様、波多野容子様、阿部純一様、北川敦子様 佐々木重臣様

❖共生の森づくり～モリンガ～

(株)アレン、ジェイレックス・コーポレーション(株)、丸橋晃子様、地球愛祭り東京実行委員会、佐々木重臣様、佐々木康彰様、小山愛子様、蒲生みち子様、大山行雄様、馬場潤様、稲葉幸子様、佐藤恵美子様、司馬美希様、小松原みえ子様、喜多勝也様、濱田剛様、平賀舞様 梶山菜津子様、山岸政昭様

植林は平和の礎

**森の前に文明あり、
文明の後に砂漠あり**

人類の歴史は森と共に栄枯盛衰を繰り返してきました

森のない地球にあなたの未来はない！

Love Earth, Live Peace

NPOアジア植林友好協会

地球地国国際運営委員会事務局

Copyright ©VIO Co.,Ltd All right reserved